

# 防災

## 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)

〈主な派遣実績〉	隊員数 (人)	のべ人数 (人・日)
R3年 1月7日大雪	45	79
R3年 台風第10号	9	42
R3年 CFS(豚熱)	1	1
R3年 福井県記録的短時間大雨	9	42
R3年 12月25日からの大雪	26	54
R4年 8月4日からの大雨	41	117
R4年 台風第14号	2	4
R4年 鳥インフルエンザ	2	2
R5年 1月24日からの大雪	64	116
R5年 奈良県十津川村長殿での土砂崩落	3	4
R5年 台風2号及びそれに伴う前線活発化による大雨	14	20
R5年 兵庫県南あわじ市における豚熱	1	1
R5年 台風第7号	17	19
R5年 奈良県下北山村国道169号での土砂崩落	14	20
R6年 能登半島地震	316	2198

## 南海トラフの巨大地震・津波等に対する取り組み

### 【直轄国道の被害想定】

	浸水延長	橋梁の 重大な損傷	海岸擁壁の 重大な損傷	ガレキの 堆積
和歌山県	約100km	53橋	約20km	約30km

和歌山・紀南河川国道事務所調べ 平成26年5月現在



### 【道路啓開計画】

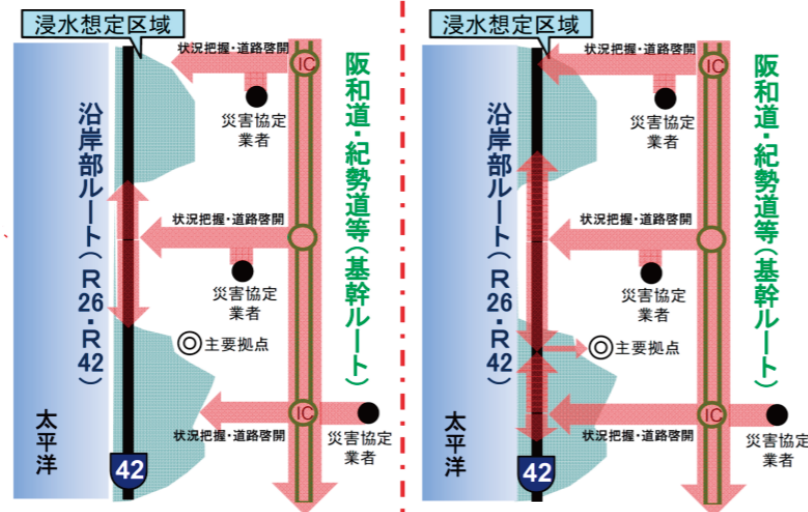
■「和歌山県道路啓開計画」では、津波被害想定をもとに、緊急輸送道路ネットワーク等を考慮し、優先的に啓開すべき道路を「啓開ルート」として選定  
 ■人命救助を目指した救助・救援ルートを確保するため「道路啓開」の段階目標を設定

### 【STEP1⇒発災後、24時間以内完了目標】

基幹ルート、及び沿岸部への進出ルート等(浸水想定区域外)を確保

### 【STEP2⇒発災後、48時間以内完了目標】

津波警報解除後、主要拠点(市役所等)への進出ルートを確保



### 【堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点】

■当該防災拠点は、南海トラフで発生する地震・津波等による大規模災害が発生した際に、「救援支援物資の中継・分配機能、海上輸送支援機能、広域支援部隊の集結地・キャンプ機能、災害医療支援機能」等の重要な役割を担うとともに、平常時は市民の憩いの広場として利用。



### 【地震発生時における応急活動】

■発災後速やかにヘリやCCTV等を用いた被災状況調査を実施するとともに、TEC-FORCEを派遣し、津波浸水地域では排水ポンプ車による排水活動を関係機関と連携して実施。



### 災害対応



照明車による夜間復旧作業  
【令和4年5月奈良県の斜面崩落】



被災状況調査  
【能登半島地震】

### 防災訓練・教育



加古川大堰での防災通信訓練  
【令和5年度(後期)防災通信訓練】



給水支援(石川県派遣)  
【能登半島地震】



乗員保護支援  
【令和5年1月24日からの大雪】



防災教育  
【令和4年2月 防災教育授業】

# インフラDX

## インフラ分野のDX (Digital Xformation)の推進

詳しくはこちら →

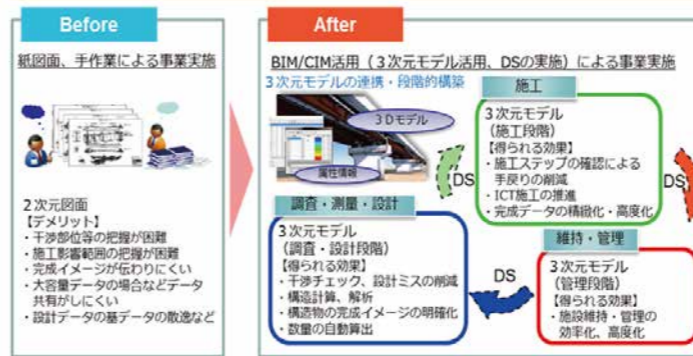


データとデジタル技術を活用し、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革するとともに、業務、組織、プロセス、建設業や職員の働き方を変革し、安全・安心で豊かな生活を実現すべく、取り組みを推進します。

## 近畿地方整備局におけるインフラ分野のDXの取り組み

### ■ BIM/CIM活用による建設生産システムの効率化・高度化

これまで紙図面や手作業により事業(調査・設計・測量・施工・維持・管理)を実施してきたが、BIM/CIM(3次元モデル活用、DS(Data-sharing)の実施)を活用し、建設生産システムの効率化・高度化を図る。



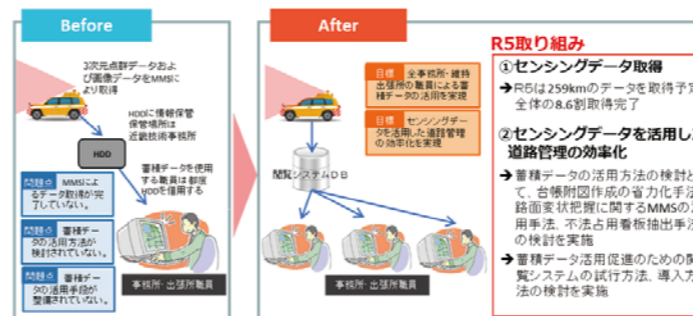
### ■ AIによる画像解析を活用した施工管理の迅速化・効率化

コンクリートのスラブ試験にAIによる画像解析を活用することで、現地立会の迅速化・効率化に加え、全数検査による構造物の品質向上を実現する。



### ■ MMS(モバイル・マッピング・システム)の活用による維持管理業務の効率化

道路管理業務には台帳附図の更新や看板の不法占用物件の把握に、手間がかかったり苦慮している業務が複数ある。このような更新や把握に課題がある業務に対して、MMSにより取得した3次元点群データおよび画像データを有効活用することにより、業務の効率化を図る。



## インフラ分野のDXを推進するための人材育成

### ■ インフラDX推進センター

近畿インフラDX推進センターとは…  
DXを推進する人材の育成と確保を目的に「育成」「体験」「情報発信」を行っています。

近畿インフラDX推進センター(大阪府枚方市)を拠点とし、デジタル技術に関する知識や技術を習得することで、BIM/CIM、ICT施工、3次元データなどを活用できる人材育成に取り組んでいます。

また、地方公共団体や企業等、官民の人材育成支援も行い、インフラ分野のDXの推進を目指します。

<b>体験</b>	学生、一般、外国人研修生向けのインフラDXの体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔臨場、AI、VRなどのDX体験</li> <li>民間の新技术、NETIS技術を動画により紹介</li> </ul>
<b>育成</b>	国・地方公共団体、施工者向けに研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>BIM/CIM、ICT施工の体験と実務研修</li> <li>無人化(遠隔化)施工体験と実務研修</li> <li>生産性向上に関する研修</li> </ul>
<b>情報発信</b>	ホームページ、SNS等で情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>企業が取り組む新技术の情報</li> <li>官民のi-Con、BIM/CIMなどの取り組み</li> <li>DX大賞、DXコンペなど地域建設業の取り組み</li> </ul>

## 建設業の働き方改革推進

### 土木工事書類作成スリム化ガイド 受発注者コミュニケーションガイド

<b>土木工事書類作成スリム化ガイド</b>	<b>受発注者コミュニケーションガイド</b>
<p>工事書類のスリム化を図るとともに、受発注者間における資料作成の役割分担を明確化することで書類作成に要する時間を削減し働き方改革を推進する。</p>	<p>受発注者間のコミュニケーションを図ることで、適切な設計変更や協議の迅速化など適正かつ円滑な工事請負契約の履行を行い働き方改革を推進する。</p>